

国立国会図書館 調査及び立法考査局

Research and Legislative Reference Bureau
National Diet Library

論題 Title	開会挨拶・趣旨説明
他言語論題 Title in other language	Opening and Aim of the Symposium
著者 / 所属 Author(s)	ローラー ミカ (LAWLER Mika) / 国立国会図書館調査及び立法考査局専門調査員、文教科学技術調査室主任
書名 Title of Book	AI と社会のこれからを考える
シリーズ Series	調査資料 2024-4 (Research Materials 2024-4)
編集 Editor	国立国会図書館 調査及び立法考査局
発行 Publisher	国立国会図書館
刊行日 Issue Date	2025-3-18
ページ Pages	3-8
ISBN	978-4-87582-937-9
本文の言語 Language	日本語 (Japanese)
摘要 Abstract	

* この記事は、調査及び立法考査局内において、国政審議に係る有用性、記述の中立性、客観性及び正確性、論旨の明晰（めいせき）性等の観点からの審査を経たものです。

* 本文中の意見にわたる部分は、筆者の個人的見解です。

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

科学技術に関する調査プロジェクト2024シンポジウム

AIと社会のこれからを考える

【開会挨拶・趣旨説明】

国立国会図書館 調査及び立法考査局
文教科学技術調査室主任 ローラー ミカ

スライド 1

国立国会図書館
National Diet Library, Japan

国立国会図書館 調査及び立法考査局の業務

```
graph TD; A[国会議員の依頼に基づく調査  
(年間約3万6千件)] -- 回答 --> C[国会議員]; B[自発的な調査成果の刊行物  
(年間約310記事)] -- 提供 --> C; C -- 国政に反映 --> D[国民]; E[国立国会図書館ウェブサイト  
同局刊行物 (近刊~2003年頃まで※)  
<https://www.ndl.go.jp/jp/diet/publication/newpublication.html>  
(※これ以前は当館デジタルコレクション  
<https://www.dl.ndl.go.jp>  
の検索をご利用ください)] -- 掲載 --> C;
```

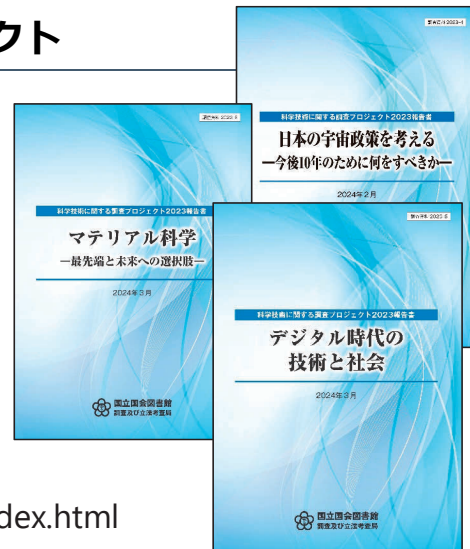
2

スライド 2

科学技術に関する調査プロジェクト

- 科学技術に関わる重要な国政課題の中から毎年複数のテーマを選び、外部の専門家の方々と連携・協力して調査・分析
- 中長期的なテーマについては、有識者の方々に御報告・御討論いただくシンポジウム等を通じて課題を展望

<https://www.ndl.go.jp/jp/diet/ta/index.html>



3

スライド 3

AIに関するこれまでの報告書

2017報告書「人工知能・ロボットと労働・雇用をめぐる視点」(2018年3月)

第1部 研究・技術動向 第2部 分野別の動向
第3部 AI と雇用に関する海外動向と人材育成・活用・管理

2023報告書「デジタル時代の技術と社会」(2024年3月)

デジタル技術と政治	第1章 カナダ議会下院におけるオンライン議事の動向 ー新型コロナウイルス感染症対策から「新しい日常」へー
	第2章 デジタル影響工作をめぐる動向と対応
	第3章 インターネットの現状とその分断をめぐる議論
デジタル技術と行政	第4章 地方自治体におけるAIの活用ー日英の業務効率化に向けた取組ー
	第5章 米国の情報通信技術の研究開発政策ー人工知能(AI)研究開発の推進ー
デジタル技術と社会生活	第6章 ネットいじめへの技術的対応策と法的規制ー欧州連合の法的規制等を中心にー
	第7章 オンライン診療の現状と更なる活用に向けた取組
	第8章 故人の遺したデジタルデータの相続等 ーインターネットを介したサービスの多様化と利用の広がりを受けてー
生成AIへの対応	第9章 生成AIの倫理的・法的・社会的課題(ELSI)

これらの報告書を踏まえつつ、本日のシンポジウムで、**AIと社会のこれからを考える**

4

スライド 4

本日のパネリスト・ファシリテータ

【パネリスト】

荒瀬 由紀 氏（東京科学大学 情報理工学院教授）

久保田 瞬 氏（XRコンソーシアム事務局長）

吉永 京子 氏（慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科特任准教授）

落合 孝文 氏（渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 プロトタイプ政策研究所所長
・弁護士（第二東京弁護士会所属））

【ファシリテータ】

小塚 荘一郎 氏（学習院大学法学部教授・国立国会図書館客員調査員）

5

スライド 5

本日の進め方

【問題提起】

小塚 荘一郎 氏

【パネリスト報告】

(1) 大規模言語モデル（LLM）の光と影

荒瀬 由紀 氏

(2) XR・メタバース最前線
—現実とデジタルが融け合う
空間コンピューティング時代へ—

久保田 瞬 氏

(3) AI技術と社会
—倫理・法・社会的課題（ELSI）と
諸外国のAI規制の動向—

吉永 京子 氏

(4) AI産業の振興

落合 孝文 氏

—休憩—

【パネルディスカッション 及び 質疑応答】

パネリスト/ファシリテータ（小塚 荘一郎 氏）

6

スライド 6

開会挨拶・趣旨説明

国立国会図書館 調査及び立法考査局

専門調査員・文教科学技術調査室主任 ローラー ミカ

本日は大勢の方に御参加いただきありがとうございます。開催に当たり、まずこのシンポジウムの枠組みを簡単に御説明いたします。

国立国会図書館は、国会議員の調査研究に資するため国会に置かれた組織です。調査及び立法考査局という部局では、国会議員からの依頼に基づく様々な調査を行っております（スライド2）。また、将来の国会のニーズを予測して自発的に、様々なテーマでの調査を実施しており、その成果を刊行物として公表しております。

この自発的な調査の一環として、重要な国政課題の中から複数のテーマを選び、各分野の専門家の方々にも御参画・御協力いただいて調査・分析を行う「科学技術に関する調査プロジェクト」を毎年実施し、報告書を取りまとめております（スライド3）。とりわけ中長期的なテーマについては、専門家の方々に御報告・御討論いただくシンポジウム等を開催して課題を展望し、その記録に解説を付して報告書としてまいりました。

本日のテーマ「AIと社会のこれからを考える」に関連するものとして、これまでこのプロジェクトでは、2018年3月に『人工知能・ロボットと労働・雇用をめぐる視点』、2024年3月に『デジタル時代の技術と社会』という報告書を作成しております（スライド4）。本日のシンポジウムは、昨年度までの成果も踏まえ、急速に実装が進むAI及びその関連技術についての現状と社会が直面する課題について、展望することを目的としております。

パネリストには、関係する分野で御活躍の専門家の方々をお招きすることができました（スライド5）。御報告をいただく順に御紹介します。東京科学大学情報理工学院教授の荒瀬由紀先生。荒瀬先生はAIの研究には不可欠である自然言語処理を御専門に研究されています。

続きまして、一般社団法人XRコンソーシアムの久保田瞬事務局長。久保田先生はVR（仮想現実）やAR（拡張現実）、メタバースの専門メディアである「Mogura VR」編集長、株式会社Moguraの代表取締役でいらっしゃいます。

続きまして、慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科特任准教授の吉永京子先生。吉永先生は、情報法、情報通信・セキュリティ政策、AIのガバナンス、法と倫理を御専門に研究されています。

続きまして、渥美坂井法律事務所・外国法共同事業弁護士、プロトタイプ政策研究所所長の落合孝文先生。落合先生は、内閣府規制改革推進会議委員、総務省AIネットワーク社会推進会議AIガバナンス検討会委員等を務められています。

ファシリテータにつきましては、商法、会社法、科学技術と法が御専門の学習院大学法学部教授小塚莊一郎先生にお務めいただきます。小塚先生には、今年度当館の客員調査員として御指導いただいております。

本日はファシリテータによる問題提起の後、パネリストの方々にそれぞれ20分程度の御報告をいただいてから、討論に入る予定です（スライド6）。限られた時間ではございますが、御登壇の先生方には幅広い視点から自由に御議論、忌憚（きたん）のない御意見をいただければ

ば幸いです。

以上をもちまして、開催趣旨の説明といたします。

(ろーらー みか)